

# 企業、業績回復で格差

## 3割上振れ／1割強下振れ

今期損益予想

上場企業の業績回復で格差が出てきた。経済再開を背景に電機や機械など上場企業の31%が2022年3月期の最終損益予想を上方修正した。一方で下方修正の比率も14%あった。現時点では上方・下方修正額を合計するとマイナスだ。好調企業は上振れする一方で、新型コロナウイルス禍で業績が大きく落ち込んだ企業はなかなか低迷から抜け出せない。

### コロナ・半導体 重荷

29日までに21年4～9月期決算や22年3月期予想の修正を発表した45

1社（新興、親子上場の子会社など除く）について、9月末時点の予想か

らの修正状況を集計した。そのうち上方修正は141社、下方修正は64社で修正企業の比率は約46%と半数近い。上場企業の22年3月期

純利益は前期比2割増益（1700社ベース、会社予想・QUICKコンセンサス）のペースでコロナ禍による落ち込みから回復基調をたどる。

上方修正が自立つのは電機だ。ソニーグループは画像センサーや映画などの好調を背景に純利益を従来予想より300億円多い7300億円へ引

き上げた。工場自動化システムを手がける三菱電機、電子部品の日東電工など高シェア品を持つ企業も上振れが目立つ。機械ではインフラや鉱山向け投資の増加を背景にコマツや日立建機が上方修正した。

下方修正した企業では、旅客需要の回復が遅れている運輸業界で目立

つ。ANAホールディングスやJR東日本を筆頭に数百億円後半から1000億円超と損益計画を引き下げた。液化天然ガス(LNG)高騰の影響を受け、電力大手も軒並み下方修正した。ヘッドランプ大手の小糸製作所も半導体不足などによる自動車減産の影響で生産日数が減り業績が悪化する。全体では上方修正額（約4500億円）を下方修正額（約7000億円）が上回り、合計で約2500億円下振れしている。

大和証券の阿部健児チーフストラテジストは「上期までの上振れ分を通期に反映させた小幅な修正も多い。中国経済の減速や供給網混乱が想定以上で相当数の企業が保守的な見通しに傾いている」と話す。